

事業区分 青少年教育指導者等への養成事業

事業名 阿蘇ボランティア入門塾①

- [主催] 国立阿蘇青少年交流の家
- [後援] 熊本県教育委員会
- [期日] 令和3年7月10日(土)～11日(日)【1泊2日】
- [活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家
- [参加者] 52名 (大学生男子8名女子12名 高校生男子2名女子30名)
- [講師] 高見 大介 氏 (日本文理大学人間力育成センター長)
薄井 良文 氏 (Waku Waku OFFICE あそBe隊 代表)
秋山 洋 氏 (国立阿蘇青少年交流の家次長)
- [担当職員] 4名
- [ボランティア] 2名

1 趣 旨

青少年教育施設におけるボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育成する。

2 目 標

- (1) 30名以上のボランティア登録を確保するとともに、登録者がその後の活動に積極的に参加する。
- (2) 事業への満足度4点満点中平均3.5以上と回答する。

3 事業展開

研修プログラム

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
7月10日(土)							受付 開会式	講義① 青少年教育	演習① ボランティア活動の技術 「オリエンテーション」	講義② ボランティア活動の意義	夕食	演習② ボランティア活動の技術 「チャレンジゲーム」	ふり返り・入所OR	入浴	就寝準備	就寝

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
7月11日(日)	就寝	起床、準備 演習③ボランティア活動の技術「保撮」	朝食 演習③ボランティア活動の技術「清掃」	退所点検	講義・演習① 安全管理		昼食	講義③ 青少年教育施設 の現状と運営	講義④ 青少年教育施設 におけるボランティア活動	閉会式	解散					



【日本文理大での広報】



【青少年教育】



【真剣に聴く参加者】



【オリエンテーリング】



【ボランティア活動の意義】



【ラジオ体操】



【安全管理】



【グループディスカッション】



【52名の阿蘇ボラ誕生】

4 成果と課題

(1) 成果

- 昨年度のうちから企画運営ボランティアを募り、広報計画を立て、チラシ、ポスター、動画を作成するとともに、大学での講義の時間を使っての広報の結果、多くの方に集まってもらうことができた。
- 「自分から行動していきたいと思った」「参加者第一に動いていてすごいと思った」等、ボランティアが運営に携わることで、ボランティア活動の実際を見ることができ、ボランティア活動へのイメージをもたせることができた。
- 「他の活動を実際に聞いて、ボランティアに対する考え方が大きく変わった」「堅苦しいイメージだったが、そうでないことが分かった」等、青少年教育施設におけるボランティアの講義の中で、実際に活動するボランティアの体験談を聴いたり、グループディスカッションの時間に先輩ボランティアが不安や悩みを解消することで、参加者の「自分もやってみたい」という気持ちを高めることができた。
- 事業の後半くらいから、参加者に対し、参加者としてではなく法人ボランティアの仲間として接することを意識した運営をしたり、登録証を発行したりすることで、次のボランティア活動への意欲を高めることができた。

(2) 課題

- 人数が予想以上に増えたことで、当初予定していた送迎バスが出せず、参加者には迷惑をかけた。次年度以降、バスでの送迎や、年間2回開催について検討する必要がある。
- 事業への満足度の平均は3.9(4点満点)という高い結果だったが、送迎バス中止による開始時刻の変更に伴う、タイトなスケジュールにより参加者への負担が大きかった。コロナ禍における直接体験不足からの精神的な疲労も踏まえ、休憩を意識的に取り入れる必要があった。